



清らかな香り漂う梅花の候、ご清祥のこととお喜び申し上げます。日頃より、本校の教育活動にご理解とご協力をいただき、ありがとうございます。さて、12月に実施いたしましたアンケートにご回答いただき、ありがとうございました。ほぼ同じ時期に実施しました児童アンケートの結果や学校職員による評価と併せて、結果をご報告いたします。この結果を、今後、子どもたちの育成に生かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願い申し上げます。

1. 令和元年度後期学校評価結果とその分析と今後の取組

	対象	質問	評価	分析と今後の取組
確かな学力	保護者	授業は、よくわかりますか。	B	前期から2ポイント下がりA評価からB評価に下がりましたが、児童の評価は高水準にありました。授業の中で児童が「わかった」「できた」と実感できる授業が大切であると考えます。話す良さ、話し合う必要感を児童に感じさせ、思考が深まる授業に努めます。
	児童	聴く人を見て、最後まで大きな声で話していますか。	B	児童の肯定的評価は高いです。しかし、教職員は、相手に伝える意識、話す力の向上を図る必要があると考えています。主体的な話し合いが進められるように、基本となる話す力が一層つくように取り組んでいきます。
	児童	児童は結論を述べた後、根拠をもとに理由を説明していますか。	C	教職員は、もっと伸びると感じています。児童に考えを持たせることはできていますが、児童に話型がまだ十分に定着されず、「話し合っただけで考えを深め合う」までには十分至っていないと思われます。話型を使って話す良さ、話し合う必要感を児童に感じさせ、思考が深まる交流になるように指導してまいります。
	児童	児童は、「わかりました」「もう一度言ってください」「質問があります」等、大きな声ですばやく反応していますか。	C	反応を返しながらかえを深め合うことが、まだ十分ではないと思われます。発言をしっかり聞き、反応を返してくれると話す意欲が高まります。「友達の発言には反応しながら聞く」を再度全校で確認して、引き続き指導してまいります。
	児童	1時間の授業の確認とまとめで、全員が挙手していますか。	D	本校では既習の確認とまとめで全員挙手の場面を設けていますが、それが教師側のタイムマネジメント不足から、徹底できなかったことが一因と考えられます。1時間のタイムマネジメントを見直し、全員挙手の場面の時間確保に努めます。
	児童	学習用語を使って、その学習のまとめを書いていますか。	B	学習のまとめを自分の言葉で書くには、その授業の要点を児童自身が理解している必要があります。どの児童にもわかる授業にすること、わかりやすい板書であることが肝心であると考えます。教職員がそのことに心がけた成果が出始めています。今後も「わかりやすい授業」に努めます。
	児童	児童に考えを持たせる手立てや交流するための手立てをとっていますか。	A	一人一人に根拠や理由をもとに、考えを持たせることを学校全体で取り組んできた成果が出たようです。しかし、自分の考えを友達と交流して考えを深め合うことは、まだ十分とは言えません。今後、友達と考えを交流することの必要感を一層感じるように指導してまいります。
	児童	児童は、間違いについて理解して直していますか。	B	児童が間違いを理解し直すことは、学力をつける機会のひとつと考えます。教職員は間違いの傾向をつかみ、児童一人一人に合った指導に取り組んでいます。今後も継続して個別指導を大切に、どの児童にも力がつく指導に努めます。
	児童	単元テストが平均90点以上とれていますか。	C	日頃、どの児童にもわかる授業や学年・学級等の実態に合った指導に努めていますが、結果に十分に表れていません。今後、単元末などに児童の実態をつかみ、児童の課題を洗い出し、課題を重点的に指導することで、児童の学力を伸ばしていきます。
	児童	児童は宿題をしていますか。	B	学習習慣の定着を図るには、宿題の出し方も大切ではないかと思えます。「宿題さえすればよい」という意識ではなく、家庭学習を自ら考えて取り組める手立てを考えていきます。また今年度、インターネット上でも学習できるようにeライブラリーが導入されました。来年度はeライブラリーを活用した家庭学習も考えていきたいと思えます。
保護者	お子さんに家庭学習の時間をとっていますか。	C	学習習慣は学校だけでは十分につけることはできないと考えています。児童にどのようにして学習習慣を身につけていくか、今後も保護者と協力していきたいと思えます。	
豊かな心	保護者	友だちに対して、やさしく話したり、行動していますか。	A	友達に対して優しい態度で接する児童が多いことがうかがえます。教職員が児童の頑張りや良さを認め、一人一人を褒めて育てる指導を行うとともに、終わりの会の「キラリさんコーナー」等で児童同士がお互いに認め合える場を設けたり、全校で「キラリ週間」を設けたりして、児童の自己肯定感を高めています。
	児童	見守り隊の方やお客さまや先生、友だちに進んで元気なあいさつをしていますか。	A	前期に引き続き、肯定的な評価は高いですが、児童のA評価が高く教職員のA評価が低い結果でした。相手に伝わる挨拶がまだ十分ではないと思われます。これからは、相手の目を見るときともに笑顔で挨拶できるように指導してまいります。また、「挨拶シール」などを利用して意図的な取組も行っています。
	児童	児童は、あたたかい言葉づかいをしていますか。	A	肯定的な評価は高いですが、B評価の割合が高いことから、おおむねあたたかい言葉遣いはできているようですが、気持ちのこめかたや場に応じた言葉づかいなど質的な面で課題があるように思われます。挨拶の指導と同じように相手に気持ちの伝わる言葉づかいの指導をしてまいります。
	児童	児童は必要のないことは話さずに掃除をしていますか。	B	掃除のたてわりグループによって差が見られ、担当する教職員の指導の差として表れた面もあるように思われます。教職員が共通理解を図り、必要のないことは話さない指導の徹底を図っていきます。また、一生懸命に頑張っているグループや児童を紹介する場を設け、児童の意欲を引き出す取組も行っています。
	児童	児童は廊下歩行をしていますか。	C	後期は、校舎内の移動の際、廊下が慌ただしくなる様子が見られる場合があり、廊下歩行は本校の大きな課題のひとつと言えます。休み時間や教室移動の際、廊下歩行を徹底するために、走りたくなりそうな場所に看板を設けたり、天気の良い日は全教職員で一斉指導したりするなどの取組を行っています。
	児童	児童は机・椅子を整頓し、机の上に物を置かずに、教室を移動したり下校していますか。	B	肯定的な評価の割合が低くなり、C評価の割合が高くなっています。児童への意識づけはされているものの、できている時とそうでない時の差が大きくなるように思われます。机・椅子、机上の整理整頓をこまめに指導し、指導の徹底と継続を図り習慣化に努めます。
健やかな体	児童	児童はズックをそろえて奥まで入れたり、かさを巻いて整えて入れていますか。	A	多くの児童は、下足箱等の整理整頓はできており、できていない児童は各学級数名程度です。児童への個別指導ができるまで徹底されてきたので、今後、教職員が個別指導を行い、100%を目指します。
	児童	体育の授業では、素早く駆け足で集合させて、30分以上の運動量を確保していますか。	A	教職員は、児童にめあてを持たせて体育授業に取り組んでいます。今後もワークシートや体育カードを使い、児童にめあてを持たせ、各自が取り組み、その結果をふりかえる機会を設けていきます。
	児童	感謝して給食を残さず食べるようにしていますか。	A	肯定的評価は高いですが、まだ給食を残してしまう児童もいます。日々の給食指導で教職員が児童においしく食べる様子を見せたり、栄養職員や給食委員会と協力して、給食時間が楽しくなる取組をしたりしていきます。
児童	みんなを笑顔にするためにどうしたらよいかを考えて、係や実行委員、委員会の仕事をしていますか。	B	児童、教職員ともに肯定的評価は高かったですが、児童の中には否定的評価を示す児童もいました。児童がみんなのために行動できた時には、教職員が全体や個人を評価することで自己肯定感を高め、これからもみんなのために行動しようとする態度を育ててまいります。	
児童	役立っていることを称える場を、どの児童に対してもとっていますか。	B	帰りの会等で「今日のがんばりマン」や「今日のきらりんさん」などで児童同士が褒め合う場を設けています。また、どの子も褒められるように教職員が意図的に機会を設け、児童全員の自己肯定感を高め、次の行動につながるように配慮してまいります。	

2. 学校関係者評価委員会での主なご意見

- 学習に困り感のある子どもに対して、通級指導教室や特別支援教育支援員をより活用して、「勉強は楽しい」「学校は楽しい」と思う子どもを一人でも増やして欲しい。
- 「キラリさんコーナー」や「キラリ週間」で子どもたちの自己有用感を高めることは、とてもよい取組だと思う。これからも取り組んでいって欲しい。
- 正しい廊下歩行については、こども園でも取り組んでいる。子どもには「廊下は静かに歩く」ようになって欲しい。
- 蝶屋小学校のヘルメットの着用率が55%程度と聞き、その低さに驚いている。自転車に乗る際の安全指導を保護者と協力して一層の徹底を図ってもらいたい。
- これからも教職員の多忙化改善に努めて、子どもたちに関わる時間や教材研究の時間を確保し、よりよい教育活動に努めて欲しい。
- こども園ではスマホや携帯電話の子どもに与える影響について、保護者研修を行っており、小学校でも「スマホ・ケータイ安全教室」を行っていることを聞き、今後はこども園と小学校が連携して保護者により啓発していく必要があると感じた。

